



# 2022年3月期第3四半期 決算説明会



2022年1月28日  
株式会社トプコン  
取締役兼常務執行役員  
CFO 財務本部長  
秋山 治彦



会社紹介  
ビデオ

Topcon for Human Life

## 株式会社トプコン

2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年1月28日

## イベント概要

---

**[企業名]** 株式会社トプコン

**[イベント種類]** 決算説明会

**[イベント名]** 2022年3月期 第3四半期 決算説明会

**[決算期]** 2022年3月期

**[日程]** 2022年1月28日

**[時間]** 15:30 -16:20

(合計 : 50 分、登壇 : 20 分、質疑応答 : 30 分)

**[開催方式]** オンライン開催 (ライブ配信)

**[登壇者]** 2名

取締役 常務執行役員 財務本部長 秋山 治彦

執行役員 広報・IR 室長 平山 貴昭

# 2022年3月期第3四半期 決算説明会

## I. 2022年3月期第3四半期 決算報告

## II. 2022年3月期 通期見通し

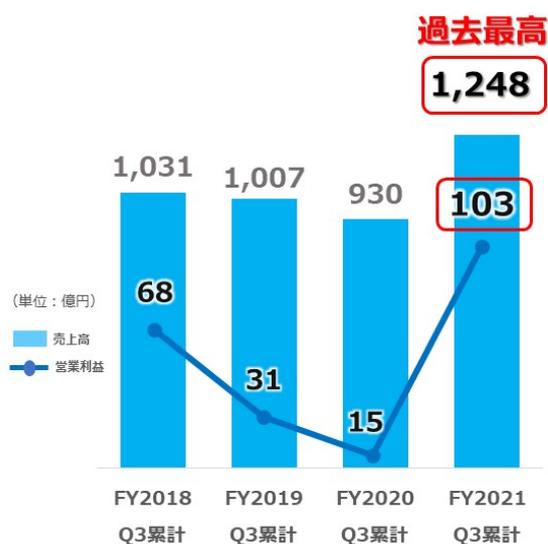
## III. まとめ

## IV. 参考資料

みなさま、こんにちは。本日はお忙しい中、ご視聴いただきありがとうございます。これより2022年3月期第3四半期の決算説明を行います。

第3四半期の決算報告、2022年3月期の通期見通し、まとめの順でご報告します。

## FY2021 Q3累計決算概要



**大幅増収増益**

**売上・利益とも過去最高を更新**

	対FY2020	対FY2019
売上	134%	124%
営業利益	711%	338%



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

4

こちらは第3四半期累計期間の決算概要です。売上高は1,248億円、営業利益は103億円と、前年度、前々年度と比べても大幅な増収増益で、どちらも過去最高を更新しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかった前年度と比べて大幅に伸長しましたが、その影響がなかった2019年度と比較しても、売上高は124パーセント、営業利益は338パーセントという実績となっています。

## FY2021 Q3累計実績

### ■ 売上・利益 過去最高

(単位：百万円)

	Q3累計			
	FY2020	FY2021	前年同期比	前年同期比%
売上高	92,991	124,834	31,842	+34%
売上総利益 (売上総利益率)	45,676 (49.1%)	63,959 (51.2%)	18,282	+40%
販管費	44,221	53,611	9,390	
営業利益 (営業利益率)	1,455 (1.6%)	10,347 (8.3%)	8,891	+611%
営業外損益	△ 1,394	△ 1,101	293	
経常利益	60	9,246	9,185	
特別損益	△ 221	292	513	
税引前利益	△ 160	9,538	9,699	
純利益	△ 1,322	5,752	7,075	
為替換算 レート	USD	105.87 円	111.38 円	5.51円
(期中平均)	EUR	122.30 円	130.85 円	8.55円



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 5

P/Lの詳細です。売上高は前年同期比+34パーセント、金額としては約318億円の増収、売上総利益率は51.2パーセントとなりました。後ほどご説明しますが、部材価格や物流費の高騰といったネガティブ要因が入った上での利益率となっています。

前年度の売上総利益率は49.1パーセントでした。前年度前半は、コロナ禍の影響で稼働率が下がり、利益率が悪化。今年度も特殊要因はありますが、売上総利益率は前年度を約2ポイント上回っています。

販管費は前年度から約94億円増加ですが、売上増に見合った増加と言えます。営業利益率は8.3パーセントで、前年度の1.6パーセントから大幅に改善、純利益は、前年度13億円のマイナスと当期純損失でしたが、今年度は約58億円となり、約71億円の大幅な増益となりました。

## FY2021 Q3累計事業別実績

### ■ 全事業で大幅増収増益

(単位：百万円)

		Q3累計			
		FY2020	FY2021	前年同期比	前年同期比%
売上高	ポジショニング	49,061	<b>67,812</b>	18,751	+38%
	スマートインフラ	23,804	<b>28,027</b>	4,223	+18%
	アイケア	28,976	<b>41,360</b>	12,383	+43%
	その他	838	867	28	
	消去	△ 9,688	△ 13,233	△ 3,545	
	合計	92,991	<b>124,834</b>	31,842	+34%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	3,087 (6.3%)	<b>7,248</b> <b>(10.7%)</b>	4,161	+135%
	スマートインフラ	2,944 (12.4%)	<b>4,405</b> <b>(15.7%)</b>	1,461	+50%
	アイケア	△ 1,211 (△4.2%)	<b>1,983</b> <b>(4.8%)</b>	3,194	黒字化
	その他	△ 340	△ 264	76	
	調整	△ 3,024	△ 3,025	△ 1	
		合計	1,455 (1.6%)	<b>10,347</b> <b>(8.3%)</b>	8,891

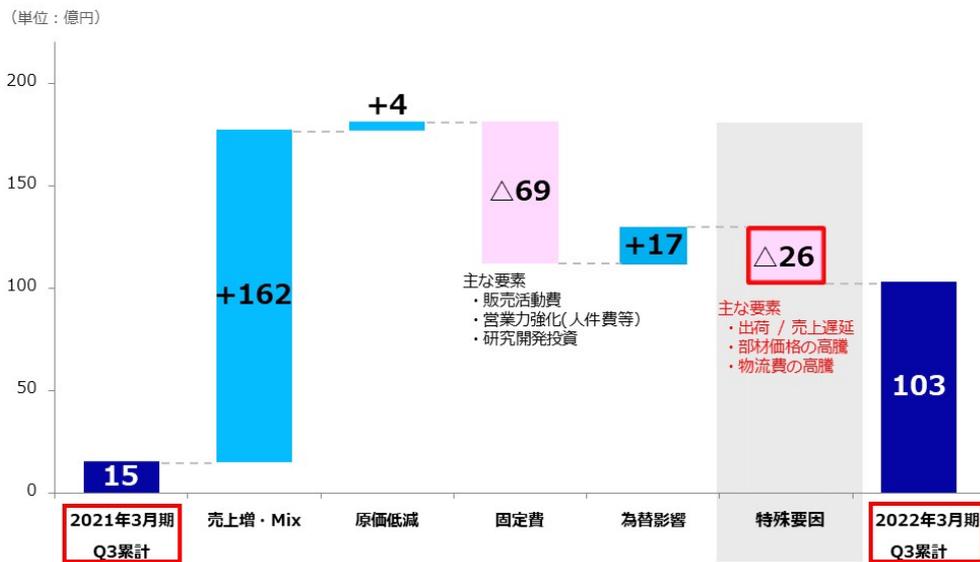


©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 6

セグメント別の売上と営業利益の前年同期比の状況です。全セグメントで大幅な増収増益となっています。詳細は後ほどご説明します。

## FY2021 Q3累計増減益分析（営業利益ベース:前年同期比）



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 7

第3四半期の営業利益の増減益分析です。前年同期の15億円に対して今年度は103億円と、88億円の増益となりました。内訳は、売上増減・Mixで+162億円、原価低減で+4億円、固定費は販売活動費、人件費等の営業力強化費用、研究開発投資で△69億円、為替が円安に進んだ影響で+17億円となりました。また、特殊要因は別出しで記載している通り、△26億円となりました。内容は、部材不足に伴う出荷と売上遅延、および部材価格と物流費の高騰です。

# I . 2022年3月期第3四半期 決算報告

I-1. 2022年3月期第3四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 8

次に事業別の状況、業績要因分析結果をご説明いたします。

■ 売上・利益 過去最高

(単位：百万円)

	Q3累計			
	FY2020	FY2021	前年同期比	%
売上高	49,061	67,812	18,751	+38%
営業利益 (営業利益率)	3,087 (6.3%)	7,248 (10.7%)	4,161	+135%
為替換算レート USD (期中平均)	EUR			
	105.87円	111.38円	5.51円	
	122.30円	130.85円	8.55円	

業績要因分析

全般

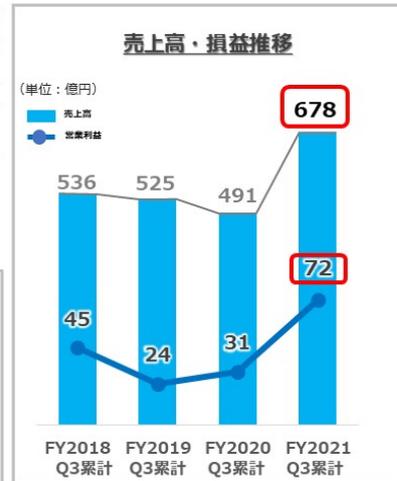
- 欧米の活発な住宅・インフラ投資を追い風に大幅増収増益
- 部材・物流費の高騰や部材不足の影響が拡大

ICT自動化施工・IT農業

- アフターマーケット・OEM共に販売好調継続

測量・レーザー

- 住宅市況の好調継続で販売堅調



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

9

ポジショニング事業です。売上高、営業利益ともに過去最高となりました。売上高は前年度の約491億円から約678億円と、+38パーセントの大幅伸長です。営業利益は前年度の約31億円から約72億円と2倍以上となり、コロナ禍前の2019年度、2018年度と比べても、売上は大幅に伸長しました。

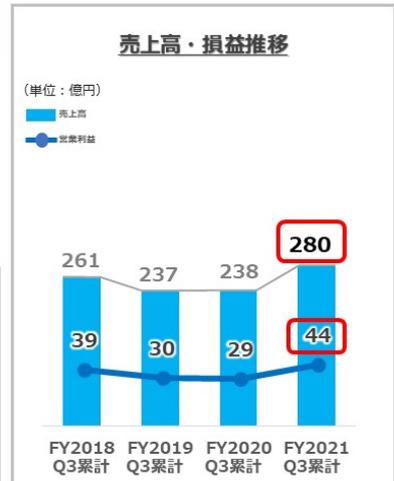
全般的に、欧米の活発な住宅やインフラ投資を追い風に大幅な増収増益です。しかし、部材や物流費の高騰、部材不足の影響が第3四半期に大きく出ています。

マーケット別では、ICT自動化施工、IT農業は、アフターマーケット、OEMともに販売が非常に好調でした。測量機・レーザーは、主に米国の住宅市況の好調が継続、販売が堅調でした。

■ 売上・利益 過去最高

(単位：百万円)

	Q3累計			
	FY2020	FY2021	前年同期比	%
売上高	23,804	<b>28,027</b>	4,223	<b>+18%</b>
営業利益 (営業利益率)	2,944 (12.4%)	<b>4,405</b> <b>(15.7%)</b>	1,461	<b>+50%</b>
為替換算レート USD (期中平均)	105.87円	111.38円	5.51円	
EUR	122.30円	130.85円	8.55円	



業績要因分析

全般

- 国内向け販売堅調、欧米向け販売大幅伸長
- 部材価格の高騰や部材不足の影響が拡大

測量機

- 販売好調も部材不足で受注残の適正化が進まず

ICT自動化施工・IT農業

- 仕入れ遅延の影響が顕在化、売上への影響拡大

次に、スマートインフラ事業です。ポジショニング同様、売上高、営業利益ともに過去最高となりました。安定した事業で、売上高は前年度の約 238 億円から約 280 億円と、+18 パーセントの伸長率でした。営業利益も約 29 億円から約 44 億円と、約 15 億円伸びています。要因として、メインの市場である日本国内の販売が堅調だったことに加え、欧米向けの販売も大きく伸長したことが挙げられます。

スマートインフラも、部材価格の高騰や、部材不足の影響が出始めてきました。測量機は販売が好調ですが部材不足で受注残が適正化出来ず、ICT 自動化施工、IT 農業は、仕入れの遅延で、売上に影響が出ています。

■ 売上 過去最高、黒字化

(単位：百万円)

	Q3累計		前年同期比	%
	FY2020	FY2021		
売上高	28,976	41,360	12,383	+43%
営業利益 (営業利益率)	△ 1,211 (△4.2%)	1,983 (4.8%)	3,194	黒字化
為替換算レート USD (期中平均)	EUR			
	105.87円	111.38円	5.51円	
	122.30円	130.85円	8.55円	

業績要因分析

全般

- コロナ禍でも主要マーケット中心に需要堅調
- 部材・物流費高騰の影響が顕在化

スクリーニング

- 欧・米・中各地で販売好調
  - ・Maestro :英国の複数チェーン店から大型受注
  - ・TRC-NW400 :中国の病院/検診センター向けに引き続き好調

リモート検眼

- 欧米の大手チェーン店向け販売が過去最高ペースで好調を持続



最後に、アイケア事業です。売上高は過去最高、利益は黒字化しました。売上高は約 414 億円で、前年度の約 290 億円から +43 パーセント伸長し、3つのセグメントの中で一番大きな売上高伸長率でした。営業利益は、前年度は 12 億円のマイナスで営業赤字でしたが、今年度は約 20 億円となり、黒字化できました。

過去最高の売上高の要因は、コロナ禍でも、主要マーケットを中心に需要が非常に好調だったことです。また、比較的少ないですが、部材と物流費高騰の影響が顕在化し始めています。

当社で注力する事業のひとつ、スクリーニング事業については、欧州、米国、中国など各地域で販売が好調です。OCTの「Maestro」は、イギリスの複数の眼鏡チェーン店から大型受注を獲得できています。眼底カメラの「TRC-NW400」は引き続き、中国で好調に推移しています。

リモート検眼は、欧米の大手眼鏡チェーン店向けの販売が引き続き好調で、過去最高ペースで販売を継続しています。以上が、第3四半期までの決算の状況です。

## Ⅱ. 2022年3月期 通期見通し

### Ⅱ-1. 2022年3月期 通期見通し

### Ⅱ-2. 事業別トピックス

通期の業績見通しについてご説明します。

## FY2021 通期見通し

### ■ 上方修正

#### Q4事業環境の見通し

##### <プラス要因>

- 欧米中心に好調な住宅・インフラ需要を背景に測量機やICT自動化施工の需要拡大が継続
- 高値圏で推移する穀物価格や労働力不足を背景にIT農業の需要も拡大傾向
- 欧米眼科・眼鏡店市場は堅調な設備投資が継続

##### <マイナス要因>

- 部材不足による出荷・売上遅延影響の拡大
- 部材・物流コスト高騰による影響拡大

Q3累計実績及びQ4の事業環境を鑑み、以下の通り業績見直しを見直す

#### 新公表値

Q4為替前提：\$=108円/€=128円は変更なし

	旧公表値 (2021/10/29)	新公表値 (2022/1/28)	前年度 (FY2020)	前年度比
売上高	1,600億円	1,650億円	1,372億円	+20%
営業利益	125億円	135億円	66億円	+105%
経常利益	105億円	115億円	56億円	+106%
純利益	65億円	70億円	24億円	+195%
配当	20円	20円	10円	



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

13

第4四半期の事業環境について、プラス要因として、欧米を中心に好調な住宅・インフラ需要を背景に、測量機、ICT自動化施工の需要の拡大が継続すると見えています。

また、穀物価格の高騰や労働力不足を背景に、IT農業の需要も拡大傾向です。アイケアは、主に欧米の眼科や眼鏡店市場における設備投資意欲が旺盛で、好調な市況が継続すると見えています。

一方でマイナス要因は、部材不足による出荷、売上遅延の影響がさらに拡大し、部材、物流コストの高騰も拡大していくと見えています。

先ほどご説明した第3四半期までの実績と、この第4四半期の事業環境を鑑みて、今回は各項目の上方修正を行います。

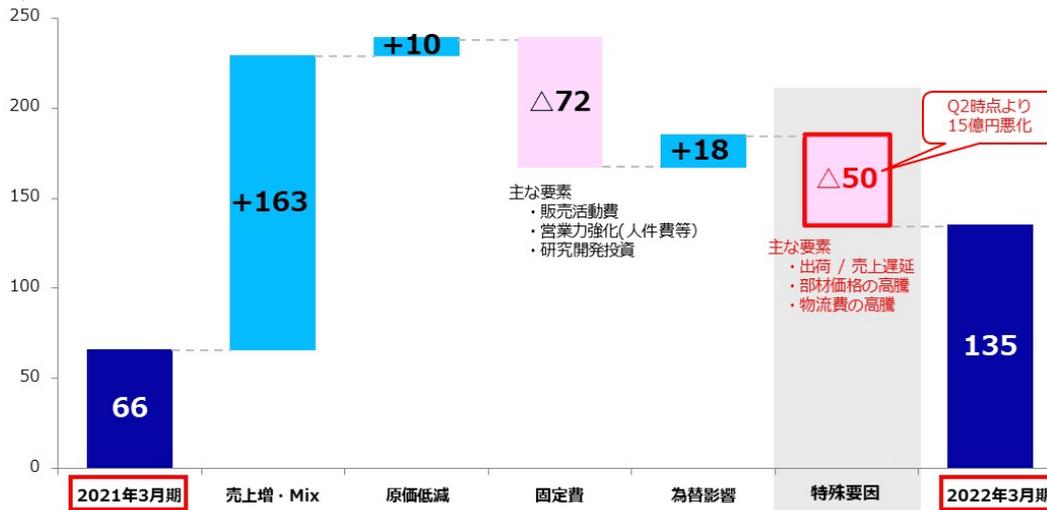
売上高は、第2四半期の決算発表時に続いて上方修正を行い、1,600億円からさらに50億円引き上げ、1,650億円とします。営業利益については、第2四半期決算時の100億円から125億円への上方修正からさらに10億円増やし、135億円に上方修正致します。

経常利益は105億円を115億円に、当期純利益は65億円を70億円に上方修正します。

## FY2021 増減益分析（営業利益ベース:前年度比）

### ■ 部材不足・物流逼迫による影響拡大も上方修正

(単位: 億円)



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

14

通期の営業利益の増減益分析です。前年度は66億円でしたが、先ほどご説明したとおり、今年度は135億円の見通しです。内訳として、売上増・Mixで+163億円、原価低減で+10億円、また、固定費として販売活動費、人件費、研究開発投資で△72億円、為替の影響で+18億円ということで、ここまでは先ほどの第3四半期の実績とほぼ同じ傾向です。

特殊要因について、第3四半期累計で△26億円とご説明しましたが、通期見通しでは△50億円で、第4四半期で24億円の部材不足、物流費および部材価格の高騰による悪影響が出ると見込んでいます。

前回の第2四半期決算発表時では△35億円とお伝えしましたので、今回の見通しは15億円悪化する見込みです。

## FY2021 通期見通し

### ■ 前年度比 売上**1.2倍**、営業利益**2倍**、純利益**約3倍**

(単位：百万円)

	FY2020	FY2021		2021年 10月29日 公表値	
		通期 実績	通期 見通し		前年度比 %
売上高	137,247	137,247	165,000	+20%	160,000
営業利益 (営業利益率)	6,593 (4.8%)	6,593	13,500 (8.2%)	+105%	12,500 (7.8%)
経常利益	5,587	5,587	11,500	+106%	10,500
純利益	2,376	2,376	7,000	+195%	6,500
ROE	3.6%	3.6%	10%		9%
配当	10円	10円	20円		20円
為替換算レート (期中平均)	USD 106.17円 EUR 123.73円		(Q4前提) レート 108円 128円		(下期前提) レート 108円 128円



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 15

通期の業績見通しです。前年同期と比較しています。売上高は前年度の約 1,372 億円から今年度の見通しは 1,650 億円で約 1.2 倍、営業利益は前年度の約 66 億円から 135 億円で約 2 倍となります。

経常利益も同様に約 2 倍、当期純利益は前年度の約 24 億円から 70 億円で約 3 倍となります。この結果、ROE も 10 パーセントになると見込んでいます。

## FY2021 通期見通し (事業別)

(単位:百万円)

		FY2020	FY2021		
		通期実績	通期見通し	前年度比%	2021年10月29日公表値
売上高	ポジショニング	71,416	91,000	+27%	88,000
	スマートインフラ	33,982	37,000	+9%	37,000
	アイケア	44,251	54,000	+22%	52,000
	その他	1,165	1,000		1,000
	消去	△13,568	△18,000		△18,000
	合計	137,247	165,000	+20%	160,000
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	6,064 (8.5%)	10,500 (11.5%)	+73%	9,500 (10.8%)
	スマートインフラ	4,972 (14.6%)	5,000 (13.5%)	+1%	5,000 (13.5%)
	アイケア	122 (0.3%)	2,500 (4.6%)	+1,949%	2,500 (4.8%)
	その他	△536	△300		△300
	調整	△4,028	△4,200		△4,200
		合計	6,593 (4.8%)	13,500 (8.2%)	+105%



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 16

上方修正後のセグメントの内訳です。売上高については、ポジショニングが前回公表値の880億円から30億円上方修正で910億円となります。スマートインフラは前回と同様です。アイケアは520億円から20億円上方修正で540億円としました。営業利益は、ポジショニングが前回公表値の95億円から10億円の上方修正で105億円となります。

以上が通期の業績見通しとなります。

## Ⅱ. 2022年3月期 通期見通し

### Ⅱ-1. 2022年3月期 通期見通し

### Ⅱ-2. 事業別トピックス

ここからは、事業別のトピックスをご紹介します。

| 事業別トピックス
ポジショニング

**■ 2年ぶりに米国大型建設展へ出展、米国建設市場の勢いを確信**

**米国建設展「World of Concrete」**

開催地：米国ラスベガス  
日程：2022年1月18日～20日  
例年6万人規模の来場者数を記録

**WORLD OF CONCRETE**

[会場の模様 動画URL]  
<https://www.topcon.co.jp/invest/popup/WOC2022.html>



会場の様子



当社ブース

コロナ前水準を上回る  
引き合い獲得

↓

**米国建設市場の  
活況さを再認識**

**新製品発表**

**中小型建機向け  
ガイダンスシステム**

- ✓ 対応機種の種類を拡大
- ✓ 日本市場の成功事例を横展開



**スキャナー搭載  
トータルステーション**

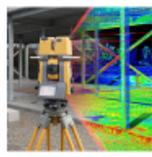
- ✓ 1台2役で測量・3D計測  
効率化を実現
- ✓ 作業工程を飛躍的に短縮



コンパクトトラックローダー



小型ショベル





©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

18

ポジショニング事業です。2年ぶりに米国の大型建設展に出展しました。ラスベガスで毎年1月に開催される「World of Concrete」という建設向けの展示会で、例年6万人規模の来場者が訪れます。

1月18日 - 20日にこの展示会が開催され、非常に活況な展示会となりました。結果として多くの引き合いも獲得でき、米国の建設市場の活況さを再認識できました。

この展示会では、新製品の小型建機向けのガイダンスシステムやスキャナー搭載トータルステーションを紹介しました。

■ 建築DX本格始動、新製品投入でプロモーション加速

建築向け新製品リリース

建築専用 高精度位置出し機

✓ 2人から1人に！  
建築に必須の  
墨出し作業を省人化



建築向け製品  
ラインアップ拡充



従来作業



2人でアナログ作業

NEW  
楽位置

当社ソリューション



✓ デジタル測量機で1人に対応  
✓ 時間短縮  
✓ 精度向上

第6回「Japan Build 2021」

開催地：東京ビッグサイト  
日程：2021年12月6日～8日  
来場者数：3万人超



- ✓ 大型建築展示会へ初出展
- ✓ 住宅メーカー、ビル建設業等  
新たなターゲット層へアプローチ
- ✓ 新製品効果で引き合い好調



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

19

次にスマートインフラ事業です。昨年12月に東京ビッグサイトで「Japan Build」という建築向けの展示会が開催されました。昨年12月時点は日本国内の新型コロナウイルス感染者数が非常に少ない時期だったため、来場者数は3万人を超え、活気のある展示会となりました。

当社としては建築向けの展示会への出展は今回が初めてで、スライド左に記載しているように建築向け専用の新製品を発表しました。従来の2人がかりのアナログ作業が、この新製品を使うと1人で作業することができ、さらに作業時間も大幅に短縮され、精度も向上します。そのため、本展示会で発表して以来、この新製品のデモの要望や引き合いが非常に多くなっています。

■ 世界最大の眼科学会 2年ぶりの実地開催

米国眼科学会(AAO)



開催地：米国ニューオーリンズ  
日程：2021年11月12日～15日



- ✓ 参加者数約1万2千人超  
現地参加：8割  
オンライン参加：2割
- ✓ 引き合い、受注が活発化



米国眼科市場の  
活況を確認



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

20

アイケア事業について説明します。昨年11月中旬に毎年開催されている「米国眼科学会(AAO)」という世界最大の眼科学会に参加しました。

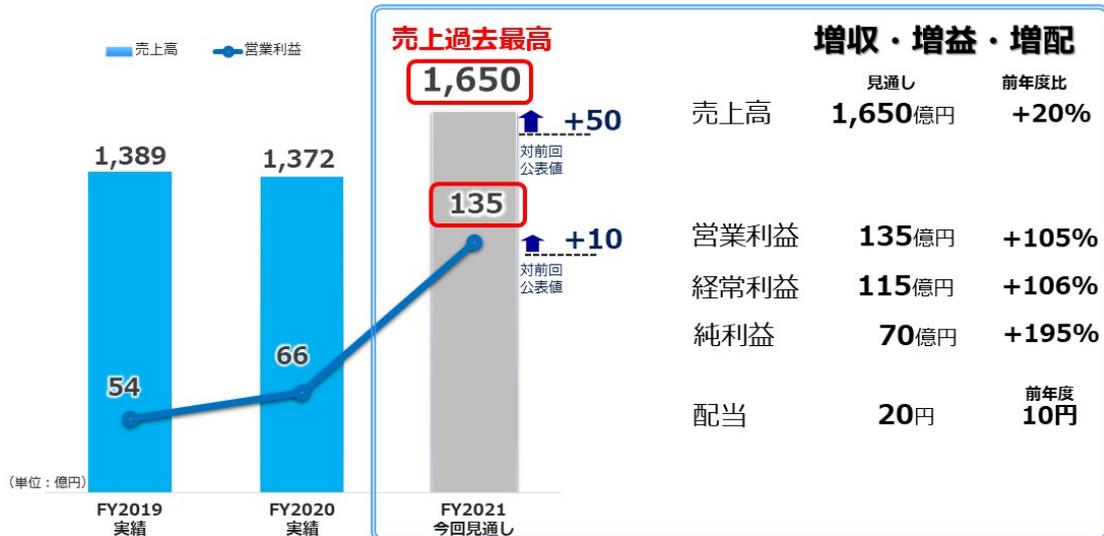
前年度はオンラインのみの開催でしたが、新型コロナウイルス感染者数が減少していたため、今回は実地とオンライン双方でのハイブリッド開催となりました。参加者のうち8割は現地での参加だったため、引き合いや受注が非常に活発化し、米国の眼科市場の活況を確認することができました。

## Ⅲ. まとめ

最後に、まとめです。

## まとめ

### ■ 上方修正 前年度比 売上1.2倍、営業利益2倍、純利益約3倍



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

22

先ほど説明した通り、通期見通しを上方修正し、売上高は1,650億円と過去最高額になる見込みです。営業利益は135億円で、前回公表値から10億円の上方修正です。

前年同期比で、売上が1.2倍、営業利益が約2倍、純利益が約3倍となり、こちらの数字をもって今年度の業績見通しとします。

以上、第3四半期決算報告、2022年度3月期の通期見通しを報告致しました。  
ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答サマリー

---

### <全社共通事項>

Q. 米国金利上昇の影響：米国で金利が上昇しているが、過去の経験から金利上昇はどの程度業績にインパクトがあるのか？

A. 金利上昇により住宅投資への影響はある程度避けられないと考えるが、当座は住宅需要の底堅さ、またインフラ分野は強い需要が継続すると見ている。

### 特殊要因（部材不足・物流逼迫）：

Q. 今期の内訳と来年度見通し：特殊要因の内訳を教えて欲しい。また、来年度の特殊要因の見通しはどう見ているのか？

A. 6割程度がコスト上昇で残りが部材不足による影響。この傾向は少なくとも来年度前半まで続くのではないかと見ているが、その先はまだ分からない。仮に前半で解消すれば来期の特殊要因は50億を下回る可能性はある。

Q. 売上増の要因：特殊要因は売上の制約要因になると思うが、一方で売上は上振れた。どのように理解すればよいのか？売価アップによる影響が大きいのか？

A. 価格転嫁の影響もあるが、市況、需要の強さがネガティブ要因を上回りこのような結果となった。

### 第4四半期見通し

Q. Q4はQoQで減収減益予想となっており、慎重な計画に見えるがコメントして欲しい。

A. アイケア事業はQ3とQ4で一部出荷の入り繰りの影響があるので、下期全体で評価して欲しい。いずれにせよ、Q4はスマートインフラ事業、アイケア事業とも部材不足や部材コスト上昇の影響が拡大することが要因。

## 2022 年度の見通し

Q. 売上の高い伸びが続いているが、2022 年度もこの状況が継続すると理解していいか？

A. 現時点で明確なことは申し上げられないが、ポジショニング事業/スマートインフラ事業については金利上昇やサプライチェーン問題の影響継続が懸念される一方で、各国でインフラ投資が増加し、現在の好調な需要環境が当面継続すると見ている。アイケア事業は高齢化に伴う眼疾患の増加により、眼健診の需要は景気に左右されず拡大していく。好調なスクリーニングビジネスを中心に現在の状況が続くと考えている。

Q. 今期、営業利益は、特殊要因を合わせると 185 億円が実力値ということになり、今後もポジショニング事業とアイケア事業のモメンタムが続く場合、来期はかなりの数字を期待できるように思うがどうか？

A. 今期実力値 185 億円をベースに考えて構わないが、来期も特殊要因はゼロにはならないので、特殊要因をどの程度織り込むか次第となる。

### <ポジショニング・カンパニー>

Q. 先行受注と来期の反動減：OEM 顧客からの実需以外の先行発注はどの程度含まれているのか？ アフターマーケットでも先行発注があるのか？ 来期の反動減を懸念しての質問とご理解いただきたい。

A. アフターマーケットは先行発注はなく実需によるもの。OEM は、足元の売上がアフターマーケットを上回っており、一部先行発注が含まれていると思うが、大きなボリュームではない。

### <アイケア事業>

Q. 大口受注について：大口受注が取れているようだが、先行きどの程度の広がりがある感触を持っているのか？

A. スクリーニング、リモート検眼で大口案件が複数獲得出来ている。今後も眼科以外での健診需要は拡大していくと見ており、大手チェーンからの受注は期待できると考えている。

Q. 英国での大型受注：英国での大型受注というのはどの程度の規模感が教えて欲しい。

A. 発注者であるチェーン店の規模によってもニュアンスは異なるが、数十台から数百台レベルの規模。

Q. オミクロンの影響は？

A. Q3 迄の実績では、オミクロン影響は殆ど出ていない。Q4 についてもオミクロン影響はあまり考えなくてもよいと認識している。

## IV. 参考資料

### 四半期別業績推移

#### ■ 全社



#### ■ ポジショニング・カンパニー



#### ■ スマートインフラ・ビジネス



#### ■ アイケア・ビジネス



## 半期別業績推移

### ■ 全社



### ■ スマートインフラ・ビジネス



### ■ ポジショニング・カンパニー



### ■ アイケア・ビジネス



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

26

## 年度別業績推移・見通し

### ■ 全社



### ■ スマートインフラ・ビジネス



### ■ ポジショニング・カンパニー



### ■ アイケア・ビジネス



©2022 Topcon Corporation

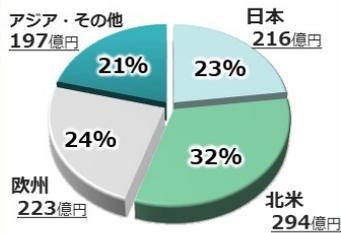
Topcon for Human Life

27

## 地域別売上高

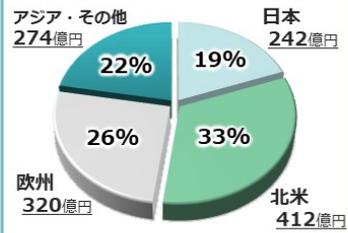
FY2020/Q3累計

930億円



FY2021/Q3累計

1,248億円



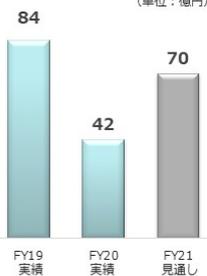
前年同期比  
**+34%**

## 設備投資および研究開発費 / 為替感応度

### ■ 投資額・費用見通し

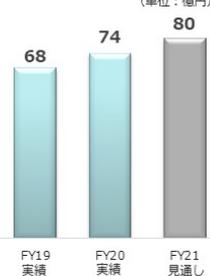
#### 設備投資額

(単位：億円)



#### 減価償却費\*

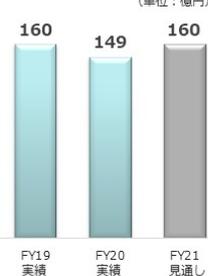
(単位：億円)



\*のれん償却費を除く

#### 研究開発費

(単位：億円)



### ■ 為替感応度 (1円の変動による影響額)

USD : 営業利益 1.5~2億円

EUR : 営業利益 0.7~1億円

■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>

## 非財務情報について

Topcon Report 2021 (統合報告書) をご参照下さい

### コンテンツ

- TOPCON WAY
- トップインタビュー
- 価値創造ストーリー
- 事業概要
- DX銘柄2年連続選定
- トプコンのESG
- 財務ハイライト

価値創造プロセス



89年の伝統あるベンチャー企業  
~新市場創造の歴史と未来~

代表取締役社長CEO 平野 聡

- 成長の軌跡
- 今と未来
- イズムの承継とSDGs



製造業のレジェンドが見た  
トプコンの未来

社外取締役 稲葉 義治  
(ファナック株式会社代表取締役会長)

- トプコンのガバナンス
- ファナックとの共通点



■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>

© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

30

## 非財務情報について

- コーポレートホームページ上の当社が取り組む社会課題、SDGs等を説明したサステナビリティページ



■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>

© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life

31

■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>



# SDGsへの取組み：CO2排出量削減への貢献

## 建機・農機の自動化システムそのものが環境負荷低減に貢献



ベンダーニュートラルの強みにより  
既存の各社建機・農機を後付けで自動化

自動化の普及拡大で  
更なるCO2削減が期待

※1 ConstructionIQ、国土交通省国土技術政策総合研究所の調査結果です。  
©2022 Topcon Corporation

※3 出典 AEM 「The Environmental Benefits of Precision Agriculture in the United States」(2020)  
<https://newsroom.aem.org/asset/977839/environmentalbenefitsofprecisionagriculture-2020-10-23-link>

※4 算定根拠  
農業用トラクター1台あたりの年間CO2排出量推定値に、オートステアリングシステムの活用による燃料消費率削減率を乗じた農機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、オートステアリングシステムによる自動操舵トラクターの全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

